

わが国近海に見られる浮遊性巻貝類—V

有殻翼足類・カメガイ亜科

日本貝類学会名誉会長 奥谷 喬司 (Okutani, Takashi)

カメガイ科 *Cavoliniidae* のうちカメガイ亜科 *Cavoliniinae* : 殻は背殻から見ると亜方形で、側面から見ると船形。殻口はスリット状で背殻が庇状に殻口を覆う。初生殻は背方に反るものと真っ直ぐのものがあるが、失われている個体が多い、翼足に切れ込みがあり前縁葉がある。また多様な側足葉もある。3 属。

ヒラカメガイ *Diacria trispinosa* (Blainville, 1821) : 殻長は原殻を含めて 20 mm、殻幅は側棘を含めて 15 mm 程度で。殻の本体は背殻も腹殻もあまり膨らまずレンズ型で左右に僅かに後方に反る棘状突起がある。後方に扁圧された初生殻があるが、脱落している個体が多い。背殻の外唇は腹殻より僅かに突出する。殻口縁と殻前縁は褐色で縁取られている。

ヤジリヒラカメガイ *Diacria major* (Boas, 1886) : 殻長 20 mm (原殻を含む)。殻はヒラカメガイと同様レンズ型で、色斑はない。左右の棘状突起は後方に反る。背殻の外唇は腹殻より僅かに突出する。ヒラカメガイは殻口縁と殻前縁は褐色で縁取られ、側棘は殆ど後方に反らないことで本種と区別される。熱帯海域に分布して我が国の黒潮の影響のある海域で稀に見られる。

マダラヒラカメガイ *Diacria ramplandi* Dupont, 1979 : 殻長 10 mm。概形も大きさもヒラカメガイに似ていて側棘はほぼ水平。殻口から殻の側縁から後縁は褐色で縁取られ、側棘の基部も同様。腹殻上に大きな褐色斑があり尾部の基部にも一対の小斑がある。本種は温熱帯太平洋・大西洋に分布し、わが国近海にも稀に見られる。

キヨコカメガイ *Diacria quadridentata* (Blainville, 1821) : 殻長 4 mm。殻幅もほぼ同様で背面観は卵方形。背殻には深い縦溝を刻み、腹殻は強く膨らむ。背殻の外唇は半円形の鐔状。殻口縁は褐色で

縁取られている。原殻は残っていないが、扁圧された初生殻はヒラカメガイのそれと良く似ている。Spoel (1967, 1968) は 2 亜種とするが、中間形もあって境界は明瞭ではないと述べている。

ササノツユ *Diacavolinia longirostris* (Blainville, 1821) : 殻長 4mm 殻幅 3.5 mm くらい。殻は透明で淡堇色。背殻の「ひさし」は嘴状に突出し、背殻には放射状の浅い溝がある。腹殻は丸く膨れる。殻の左右には僅かに上反する三角形の翼状突起がある。原殻は残っていない。インド西太平洋の熱帯海域に分布するが、我が国近海でも黒潮の影響のある太平洋側では普通。この属は粗分類法では全世界に分布する本種単一種とされていたが、Spoel (1976) では 6 型 (= 亜種) に、更に最近の細密な形態学的研究 (Spoel et al., 1993) によって 22 種 (+2 forms) に細分された。インドネシア海域など熱帯太平洋に分布する 5~6 種のなかには、日本近海にも分布する可能性もあるので、我が国近海産の種は精査する必要がある。

マルセササノツユ *Diacavolinia angulosa* (Gray, 1850) : ササノツユより僅かに小さい。殻は淡黄緑色を帯びる。背殻の「ひさし」は嘴状に突出するが、背殻前縁に沿って明瞭なくびれがある。腹殻は丸く膨れ、殻の左右には僅かに上反する三角形の翼状突起がある。我が国近海でも黒潮の影響のある太平洋側で見られる。モエギササノツユという別称もある。

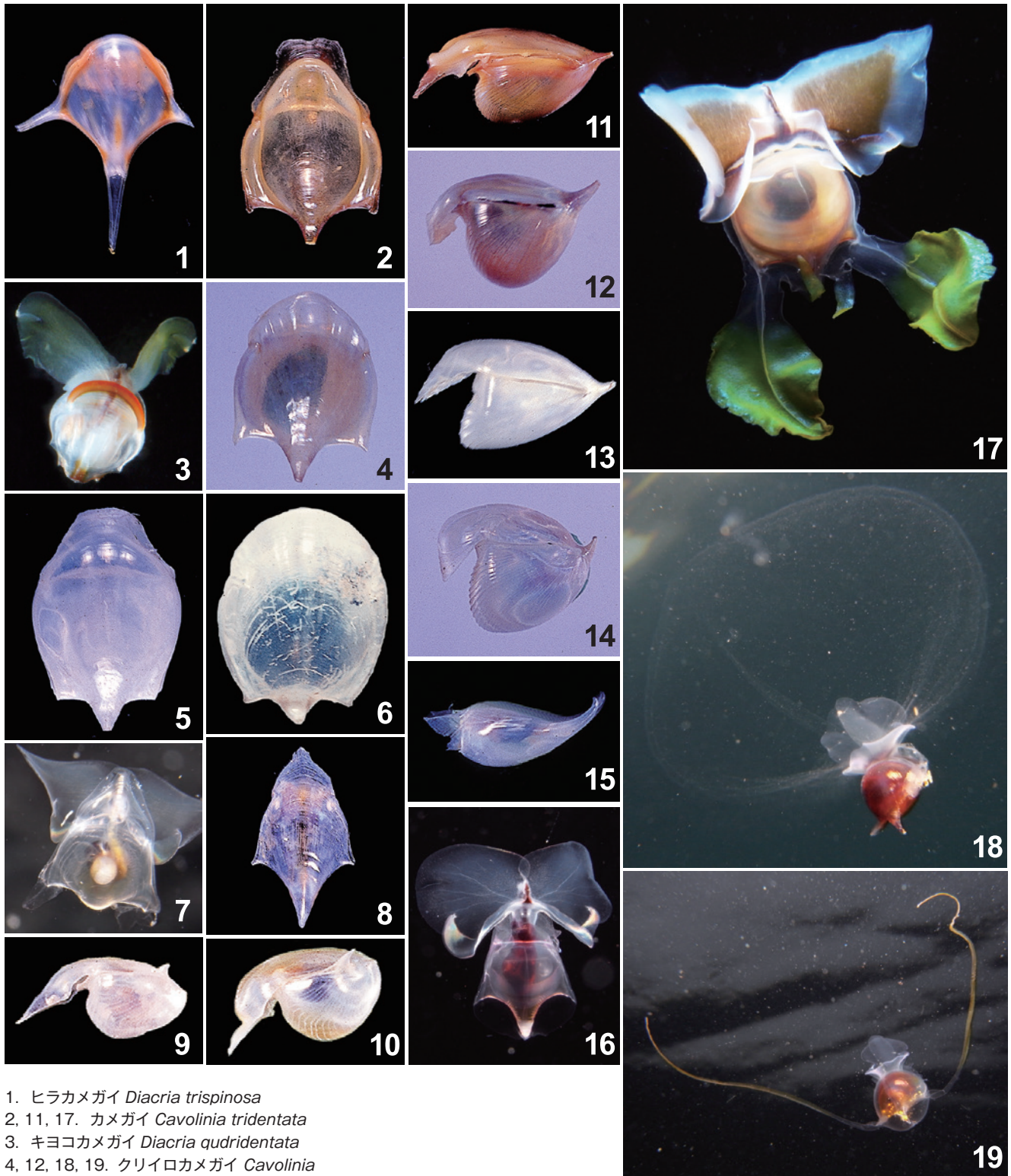
カメガイ *Cavolinia tridentata* (Niebuhr, 1775) : 殻長 20 mm。殻は飴色。腹殻は膨れて丸みがある。背殻には明瞭な縦畝がある。後方は殆ど反らない。ひさしは割合長く、前縁は凹む。Spoel (1976) は 9 型 (= 亜種) に細分しているが、それに従えば、わが国近海に分布する型は *C. tridentata teschi* Spoel, 1974 とされる。

クリイロカメガイ *Cavolinia uncinata* (Rang, 1828) : 殻長・殻幅とも 10 mm >。殻は濃い飴色で光沢が強い。腹殻は強く膨れ丸い。背殻にはかなり明瞭な縦畝がある。後方は強く背方に反る。ひさしは強く曲がり殻口を覆う。左右の側翼は強く張り出す。Spoel (1969, 1976) は 2 亜種 5 型に分けたが、わが国近海を含むインド太平洋海域に分布する型は *C. uncinata uncinata* forma *pulsate* Spoel, 1969 とされる [* forma の取り扱いについては前報で注記した]。遊泳時は背殻と腹殻の間から 3 部分に分かれる外套膜葉が広がり、長い付属糸も出している (図 19) ばかりではなく、懸濁物を集めるため大きな粘液トラップを作る (図 18) ことが観察されている。また、時には大集団が報告されている (Ueno & Amio, 1994)。

マルカメガイ *Cavolinia globulosa* (Gray, 1850) : 殻長 6 mm。殻は半透明。腹殻は膨れて丸みがあり前縁は褐彩する。背殻にはかなり深い縦溝がある。後方は僅かに反る。ひさしは強く曲がり殻口を覆う。側翼は短い。この種は亜種或いは型に細分されていない。

シロカメガイ *Cavolinia glbbosa* (Orbigny, 1836) : 殻長 11 mm。殻は白色半透明。稀に褐色の細い縞がある。腹殻は膨れかたが前 2 種に比し弱く前腹縁部に稜角があり側面から見ると鋭角に突出する。背殻には 5 本の縦畝がある。後方は僅かに反る。ひさしはあまり強く曲らず前縁及び側縁に浅い凹入がある。側翼は短い。

マサコカメガイ *Cavolinia inflexa* (Gray, 1850) : 殻長 8 mm。殻表は平滑で光沢に富む。背殻は平滑、ひさしは反らず匙状。前縁に 1 対の褐色点がある。後方は尾状に強く反る。腹殻はあまり膨れず、側部翼状突起は後方に向かう。日本近海に多い型は forma *labiata* とされる。



1. ヒラカメガイ *Diacria trispinosa*
 2, 11, 17. カメガイ *Cavolinia tridentata*
 3. キヨコカメガイ *Diacria quadridentata*
 4, 12, 18, 19. クリイロカメガイ *Cavolinia uncinata*
 5, 13. シロカメガイ *Cavolinia glbiosa*
 6, 14. マルカメガイ *Cavolinia globulosa*
 7, 9. ササノツユ *Diacavolinia longirostris*
 8, 15, 16. マサコカメガイ *Cavolinia inflexa*
 10. マルセササノツユ *Diacavolinia angulosa*
 (3 撮影：峯水 亮；7, 17, 18, 19 撮影：西巻 唯史)

引用文献 (I-IV 報に引用したものを除く)

Spoel, S. van der. 1968. A new form of *Diacria quadridentata* (Blainville, 1821), and shell growth in this species (Gastropoda, Pteropoda). *Vidensk. Meddr. Dansk. Naturh. Forening.* 131: 217-224.
 Spoel, S. van der. 1969. Two new forms of *Cavolinia uncinata* (Rang, 1829) (Pteropoda, Gastropoda). *Beaufortia*, 16 (220): 185-198.

Spoel, S. van der, Bleeker, J. & Kobayasi, H. 1993. From *Cavolinia longirostris* to twenty-four *Diacavolinia* taxa, with a phylogenetic discussion (Mollusca, Gastropoda). *Bijdragen tot de Dierkunde*, 62(3): 127-166.
 Ueno, S. & Amio, M. 1994. Swarming of thecosomatous pteropod *Cavolinia uncinata* in the coastal waters of the Tsushima Strait, the western Japan Sea. *Bulletin of Plankton Society of Japan*, 41 (1): 21-29.